

もん・もん・もん
聞・聞・聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 平成29年5月17日

〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目10番31号 電話 093 (541) 2409 番

泣くほどに 直海玄哲

悲しい話はしないで

何年か前の話です。若い女性の声で電話がありました。お母さんがご往生なさったとの連絡でした。まだ二十代半ばのその女性は、最後に「葬儀にあたってお願いがあります。ご法話で悲しくなるような話をしないでください。泣き出してしまうと止められそうにありませんから」と申されたことでした。後日、葬儀のあと、思いのままに泣かれたという話をご家族からうかがい、私は安心しました。泣くという行為そのものだけではなく、泣けるほどに偲ぶ思いを深めることは、彼女が以後の人生を歩む上で大切なことだと感じたからです。子どもの頃、悲しい思いをした時、悔しい思いをした時、自然と溢れ出した涙をとどめることができず泣きじゃくった経験を、多くの方がお持ちだと思います。父や母から「泣いてばかりじゃわからん。何を言いたいのか」と問われても、どうしようもなく泣くしかなかった日があるのではないのでしょうか。言葉にできない思いを、泣くという行為でしか表すことのできなかつた幼い頃がありましたね。大人になったからといって、子どもの頃に比べて悲しみも喜びも小さくなったわけではありません。むしろ、悲しみは年を重ねるごとに深まるようにさえ感じます。しかし、いつの間にか、悲しみに涙することに抵抗をおぼえるようになります。この私の悲しみを我がこととせずにはいられない如来さまのおこころがお慈悲でありましょう。木村無相さんは、「泣くがよい 生きたえがたい日は 泣くがよい」と味わっておられます。

ご本尊を中心に営む

都市部では自宅での葬儀が減り、会館などで葬儀を営むことが増えてきました。私たちの浄土真宗では、場所がどこであっても、位牌や遺影を中心に拝むのではなく、ご本尊を中心に安置して通夜と葬儀を勤修します。荘厳壇や写真がご本尊を隠してしまうような場合には、葬儀社やお世話様役の方にご本尊が見えるように工夫していただくよう依頼します。教義や儀礼の上からの解釈もあるでしょうが、恩愛の情を断ち切ることのできない私にあっては、如来さまの前は安心して泣ける場です。式場の正面にご本尊を安置させていただくのは、「泣いてもいいんだよ」という如来さまのおこころを示しているのではないのでしょうか。「観無量寿経」で、わが子の王子に幽閉された韋提希夫人が釈尊の前で思わず悲泣されたように、如来さまの中心に荘厳された空間では、はた目を気にすることなく気のすむまで泣いていいんだよ、と如来さまの声が聞こえるようです。ところで、お慈悲は泣ける場の提供だけで終わるのでしょうか。如来さまが、近頃はやりの癒し系ということなのでしょう。中国の儒教の教えでは、人が亡くなるとどれほど泣けるかが愛情の深さを示すバロメーターと考えられてきました。喪中の思想や一周忌、三回忌のはじまりも、この儒教の考えに由来するといわれています。親鸞聖人は、こうした中国の習わしについて、慈雲大師の言葉を引かれて「すでにいまだ世を逃れず、真を論ずれば俗を誘ふる権方なり」とおっしゃっています。如来さまは、愛する者を偲ぶ営みを通して真実に誘ってくださるのですね。

命の重み 人生の深さ

私たちは、いろんな場面で、さまざまな涙を流します。悲しいとき、辛いときに限らず、嬉しいとき、懐かしいとき、そして私たちの思い及ばない大きなものに出遇ったときにも心動かされ、自然と涙に心洗われることがあります。先日、葬儀のご縁に出会うようになったばかりの若い僧侶のつぶやきを聞きました。泣いている人の姿が見えず驚いた、というのです。通夜や葬儀の過去の経験と現在との比較、ましてや心情のその比較は、簡単に出来ることではありません。それでも、生活様式の変化や式場の多様化などにともない、少なくとも私たちの周りでは、確かに葬儀の形式化が進んでいるように感じます。人間のいのちの最後に立ち会っているのだという実感が薄れてきているようにも思えます。泣いていいんだよ、という如来さまのおこころは、同時に泣けるほどにいのちを見つめてくれよ、という願いでもありました。私たちは、ややもすれば世間体や付き合いを優先して、いのちの重みや人生の深さを見つめる縁とすれ違っているのではないのでしょうか。いのちを見つめるとは、如来さまが私たちのいのちを見つめてくださっている眼差しに出遇っていくということです。如来さまのそのご催促が自然と流れる涙かもしれません。必ずしも通夜や葬儀に限ったことではありません。私たちの都合中心に営まれるご法事が増えるなか、ひと度ひと度の法縁をなぜご本尊の前で勤修するのか、その意味を味わうことが大切でありましょう。泣いてもいいんだよ、というおこころは、泣くほどにいのちの重みを、人生の深さを感じてくれよという如来さまの願いだったのですね。

伝灯奉告法要のひとこま

伝灯奉告法要のある朝、手押し車を押しながら本願寺の境内を歩く女性と出会った。82歳のその女性は「足が悪いので、団体参拝だと皆さんに迷惑をかける」と、広島からの1人旅だった。法要参拝のために服も、手押し車も新調したと笑った。ただ一つ、手押し車の上に乗せられていた鞆だけが古かった。

色あせた旅行用ショルダーバッグ、隅には「伝灯」という小さな字がかすかに見えた。消えそうになっていたが、先の伝灯奉告法要、昭和55年の法要の慶讃マークであった。聞けば、「あの時の団体参拝でいただいた」と。それ以来、お寺の聴聞で遠出するときにはこの鞆を使い、使い終わった後はきれいに洗い、大事に大事に使い続けてきた。

体が弱かったという彼女にお寺参りを教えたのは祖母と母。子どものころ、夏の夜に祖母が寝ている彼女の背中をうちわで扇ぎながら「なまんだぶ。ありがたいね」とくちずさんだ。「何がありがたいの」と問うと、背中越しに「阿弥陀さんは寝ずの番だからね」と聞こえた。意味はわからなかったが、安心に包まれたと語る彼女は、まるで今も、背中に心地よい風を感じているかのような笑顔になった。

使い古した鞆には、色あせない祖母や母の思いがあふれんばかりに詰まっていた。街には今、真新しい鞆を持つ新1年生たちの姿があふれている。その鞆にはすでに、あなたへの大切な思いがたくさん詰まっていることを、いつの日か知ってほしい。

伝灯奉告法要 日程：第10期 5月24日～5月31日

最終日（ご満座）5月31日、ご門主様「ご消息」を発布される。

※インターネット中継で世界に同時発信

伝灯奉告法要伝灯のつどいにて、今春から西本願寺保育園にて保育士をさせて頂いている三女が、引率した園児さん方と、本願寺御門主様、大谷総家のみなさまへ、花束贈呈のご縁を頂きました。尊いありがたいご縁に感謝し、心にのこる日となりました。

正善寺仏教婦人会の会員に入って下さる方を募集中

29年度の内容

年会費 千円

5月 浄土真宗の基礎のお話

6月 お香とアロマを学んで香袋づくり

9月 簡身体操で心と身体を健康に

10月 バスハイク

2月 ぬりえに挑戦して、季節の花を描きましょう



入会お待ちしております

ご 案 内

永 代 経 法 要

	6月3日(土)	6月4日(日)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分

と き 平成29年6月3日より6月4日まで

講 師 当 山 住 職 自 勤

どうぞお誘いあわせのうえお参り下さい。

初 参 式

と き 平成29年6月4日(日) 午前11時開式

幼児が初めて仏様の前にてお参りをする儀式です

- ◎ 家族お揃いで、30分前にご集合ください。
手形の色紙作りをします。終了後、記念撮影を致します。
- ◎ 参加申し込みは、準備の都合により5月31日(水)までに、お寺へお知らせください。お待ちしております。

法 要 準 備 会

1人でもたくさんの方がきていただくと本当に助かります。
どうぞよろしくお願ひいたします

5月29日(月) 10:00 から 15:00 まで

本堂、納骨所もみんなで綺麗に致します。昼食準備しています。

法要終了後のお楽しみ 6月4日(日) 午後5時より開催予定

保育園運動場において、今季初、初夏の心地良い夕暮れの中

ビアガーデン を開催します。

お聴聞の後はおさらおいしくいただけますよ！飲めない方も美味しい食事！ご参加ください。

行事のご案内【如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし】

平成29年度小倉組

小倉組仏教婦人会総会・研修会

6月8日(木)13:00より15:30まで

会場 大手町 永照寺 本堂

講師 紫藤 常照 師

平成29年夏のつどい

と き 7月29日(土)16:00~18:00

と ころ 神岳保育園 園庭

参加対象 自 由

イベント 食品、手作りバザー各種

ゲーム大会 園児の盆踊り

園児の祇園太鼓披露

神岳保育園・父母の会主催

盂蘭盆会(盆会)(うらぼんえ)

8月13・14・15日はお盆です。正しくは「盂蘭盆会」といいます。どうぞ自由にお参り下さい。納骨所利用の方はぜひおいで下さい。なお、お盆の門徒様宅お参りは8月初めより実施しています。都合のある方、時間に制限のある方は、早めにお寺に申し込み連絡下さい。早めの期間であれば時間通りにお伺いができます。

次回の法要のご案内

秋季彼岸法要

■ 平成29年9月19日(火)(昼席)・20日(水)(昼席)

【講師】 山口県 本願寺派布教使 岡本達美師

準備会のお知らせ 9月16日(土)10:00より15:00まで 昼食準備します。

編集後記

新緑がとても美しい五月の季節です。年々、新緑の美しさに心を留めるようになりました。皆さまお元気でお過ごしでしょうか？

今日は母の日でお寺の納骨堂には亡きお母さんに会いにたくさんお参りに来られています。お母さんの好きだったお花やお菓子をお供えされたり、「お母さん」とよびかけられたりしています。呼んでも、耳に届く返事の声はありませんが、「お母さん、南無阿弥陀仏」と合わされる手のひらの中にお母さんはおられます。お浄土よりこの世に還り来て、私たちを見守り共にお念仏申しています。だから私はさみしそうなその方の背中に「大丈夫、大丈夫」と語り掛けたくくなります。そして、手を合わせてお参りされている姿は本当に美しいなとご門徒の方々のお姿に感動します。生きていくということは本当に色々なことが大波小波のようにやってきて、悩んだり、悔んだり、泣いたり、時々怒ったりして「あー幸せだな」と受け止めれる日は数日だけのようになりますが、そんな日々の暮らしすべてを「おかげさま」と受け止めていきたいと母の日に改めて思いました。そう思って人生を歩いていくことがこの世に私を産んでくれた母へのたった一つの恩返しのように思います。「念ずれば花ひらく 念ずれば花ひらく 苦しいとき母がいつも口にしていたこのことばを私もいつの頃からか唱えるようになった。そうしてそのたびわたしの花がふしぎとひとつひとつひらいていった」坂村真民

永代経法要、どうぞお参りください。薫風の中、仏様のお声に耳を傾けられませんか。お待ちいたしております。

合 掌